



2023年第1四半期 決算説明会

株式会社ブリヂストン

2023年5月15日

G財務統括部門長（Global CFO）

菱沼 直樹

1. 2023年第1四半期 連結業績 … 3
2. 2023年 通期見通しについて … 13

1. 2023年第1四半期 連結業績

2023年第1四半期 連結業績

	2022年 第1四半期実績	2023年 第1四半期実績	(単位：億円) 前年比増減 (%)
売上収益	8,910	10,435	+17
調整後営業利益	1,011	1,168	+16
利益率	11.3%	11.2%	△ 0.2pp
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	538	905	+ 68
-うち継続事業	654	907	+39
-うち非継続事業	△ 116	△ 2	-

※ 売上収益、調整後営業利益は、「継続事業」のみの金額・数値を表示しております。

2023年第1四半期 業績概要

第1四半期 ハイライト

- 米欧を中心とした景気減速を背景に市販用タイヤ需要が前年比で減少する中、戦略的価格マネジメントを推進するとともに、レジリアントなプレミアム領域へのフォーカスをより強化し、低採算領域の見直しを加速させ、販売MIXの改善を継続的に徹底。プレミアム販売数量（本数）、売値、販売MIXのバランス最適化により収益確保へ繋げた。
- 乗用車用プレミアムタイヤ（18インチ以上高インチタイヤ、内 20インチ以上「超」高インチタイヤ、各地域プレミアムタイヤ）のMIXアップ、鉱山用タイヤの前年比販売増を達成し、売上収益は前年比で増収を確保。第1四半期において当社初の売上収益1兆円超。
- 調整後営業利益については、原材料価格・インフレ（エネルギー費、労務費等）等によるコスト面のマイナス影響を、売値・販売MIXの改善でカバー。需要減少による販売数量減影響あるも、為替円安の追い風影響あり、増益で着地。

第1四半期 財別販売概況

PS/LT (乗用車/ライトトラック用)

- プレミアムタイヤ（HRD：18インチ以上）は相対的にレジリアントで販売が堅調 – 23年1Q PSR-HRD販売：前年比104%
- 新車用：22年下期以降、自動車各社の車両生産状況は改善傾向。地域差あるもタイヤ販売も前年比で増加。
- 市販用：景気減速によりタイヤ販売減少も、プレミアムタイヤ（HRD）の販売は相対的に堅調。

TB (トラック・バス用)

- 新車用：22年下期以降、半導体影響からの需要回復の動きが継続。特に欧州での販売が好調に推移。
- 市販用：景気減速を背景に米欧で前年比販売減。日本は、昨年の上値前回の駆け込みもあり1Qは前年比で販売減。

OR (鉱山用、建設用)

- 鉱山用：ロシア向け輸出停止による販売減を他市場でカバーし、グローバルで前年を上回る販売が継続。
- 建設用：新車用は堅調な販売伸長が続く一方、市販用は中小型において米国での流通在庫の調整等を背景に、販売減。

2023年第1四半期 事業環境 / タイヤ需要



為替

- USD、EURともに前年比円安で推移。
1USD=132円、1EUR=142円 (参考) 22年第1四半期 1USD=116円、1EUR=130円



原材料/ 加工費

- 原材料：素原料単価は足元軟化の一方、原材料サプライヤーにおける素原料以外のエネルギー費、労務費等は前年比で増加傾向にあり、原材料全体の価格水準としては前年比で上昇。
- 加工費：工場におけるエネルギー費・労務費等のインフレが継続しており、前年比で増加。



タイヤ需要 (PSR/TBR)

- 新車用：地域差あるも、半導体不足改善に伴う自動車各社の生産回復により、タイヤ需要も回復基調。
- 市販用：米欧の景気減速が顕在化し、タイヤ需要も減速する一方、PSR-HRD（18インチ以上）については相対的にレジリアントな需要が継続。

相場動向（平均価格）推移

	2022年				2023年
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
天然ゴム 〈TSR20〉※1 (¢/kg)	177	165	146	130	137
天然ゴム 〈RSS#3〉※1 (¢/kg)	210	211	163	150	161
原油 〈WTI〉 (\$/bbl)	95	109	91	83	76

※1 Source: Singapore Commodity Exchange Limited 期近市況価格

タイヤ需要（本数 対前年）

当社推定値

	PSR/LTR（乗用車/ライトトラック用）		TBR（トラック・バス用）	
	OE（新車用）	REP（市販用）	OE（新車用）	REP（市販用）
日本	115%	92%	99%	80%
北米	107%	92%	107%	90%
欧州	119%	87%	113%	74%

2023年第1四半期 タイヤ販売本数：対前年



PSR/LTR

	対前年
グローバル	91%
OE（新車用）	
グローバル	102%
日本	112%
北米	102%
欧州	115%
中国・アジア・大洋州	86%

REP（市販用）

グローバル	86%
日本	81%
北米	94%
欧州	76%
中国・アジア・大洋州	93%



TBR

	対前年
グローバル	87%
OE（新車用）	
グローバル	100%
日本	102%
北米	93%
欧州	120%
中国・アジア・大洋州	105%

REP（市販用）

グローバル	83%
日本	77%
北米	88%
欧州	59%
中国・アジア・大洋州	100%



ORR

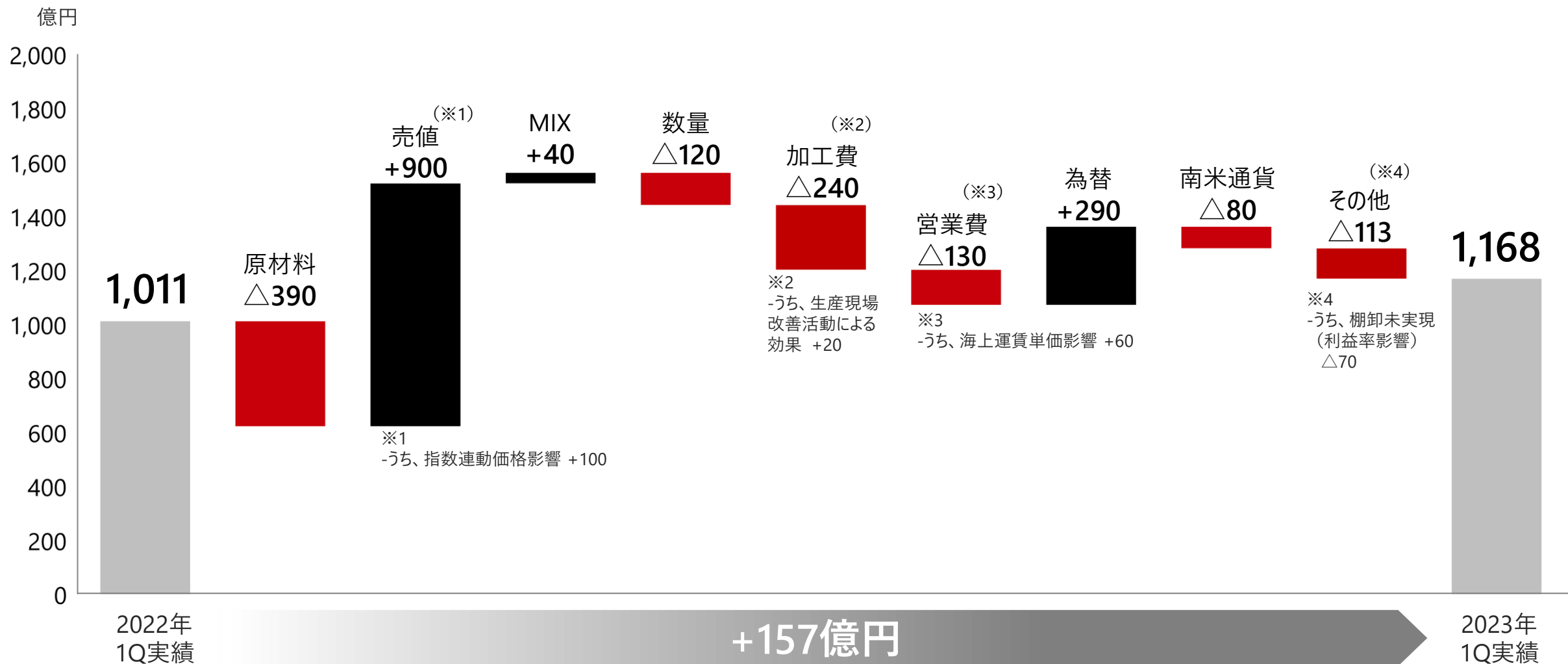
	対前年
超大型（REP）	105%
大型	110%
OE	116%
REP	106%
中小型	96%
OE	106%
REP	90%



PSR 18インチ以上

グローバル	104%
REP	99%

2023年第1四半期 調整後営業利益増減要因：前年差







2023年第1四半期 セグメント別業績

		2022年 第1四半期実績	2023年 第1四半期実績	(単位：億円) 前年比増減 (%)
日本 [※]	売上収益	2,656	3,000	+13
	調整後営業利益	301	415	+38
	利益率	11.3%	13.8%	+2.5pp
米州	売上収益	3,905	4,949	+27
	調整後営業利益	434	545	+25
	利益率	11.1%	11.0%	△ 0.1pp
欧州・ロシア・中近東・ インド・アフリカ	売上収益	2,059	2,267	+10
	調整後営業利益	199	68	△ 66
	利益率	9.6%	3.0%	△ 6.7pp
中国・アジア・大洋州	売上収益	1,043	1,169	+12
	調整後営業利益	103	83	△ 19
	利益率	9.8%	7.1%	△ 2.7pp

※ 2023年より、一般タイヤ取引における日本本社の輸出損益を「セグメント間」から「日本セグメント」での計上に変更しております。なお、対応する前年同期についても同様に組み替えた金額・数値を表示しております。

2023年第1四半期 財別業績

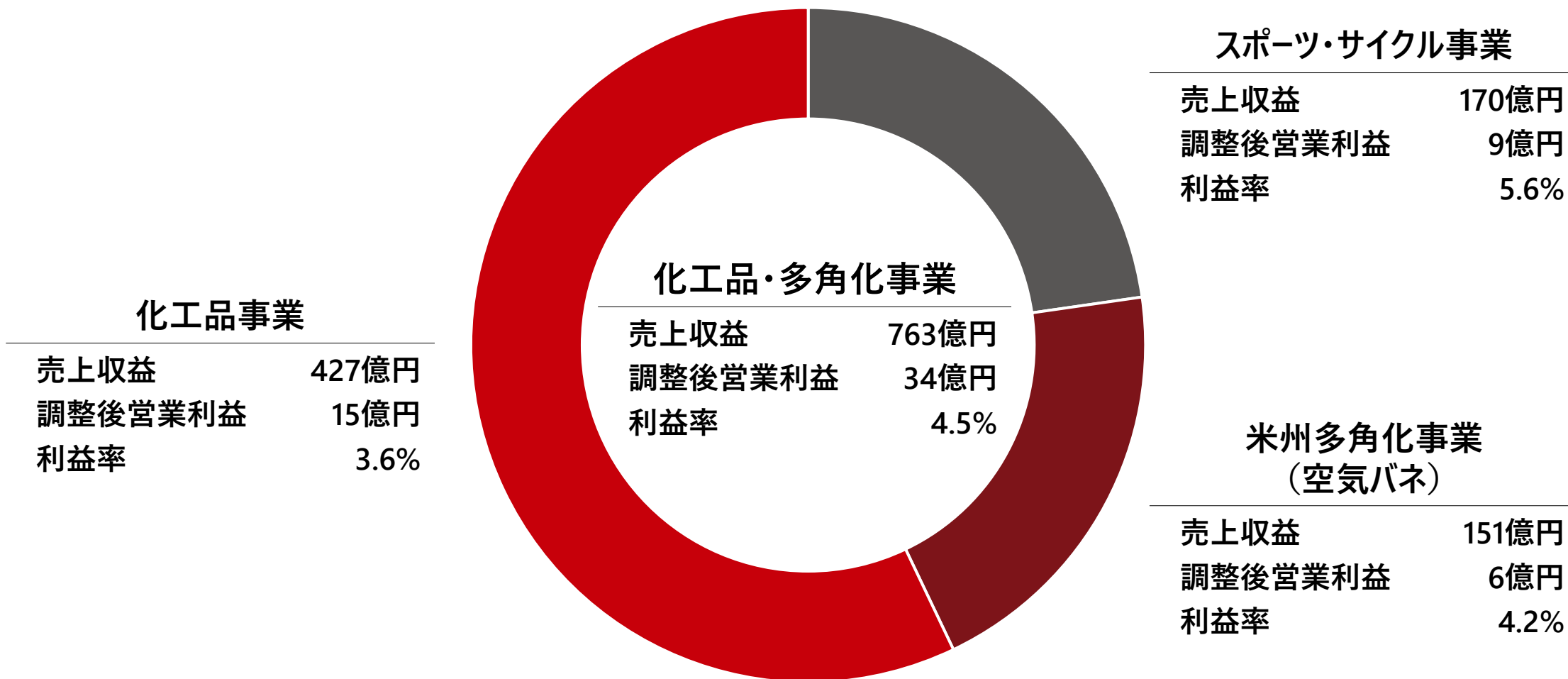
(単位：億円)

	2022年 第1四半期実績	2023年 ※1 第1四半期実績	前年比増減 (%)
 PS/LT (小売・クレジットカード事業を含む)	売上収益	4,746	+20
	調整後営業利益	537	+6
	利益率	11.3%	△ 1.2pp
 TB (リトレッド事業を含む)	売上収益	2,333	+8
	調整後営業利益	211	+14
	利益率	9.1%	+0.5pp
 Specialties (OR/AC/AG/MC)	売上収益	1,169	+26
	調整後営業利益	228	+41
	利益率	19.5%	+2.4pp
 化工品・多角化事業 ※2	売上収益	662	+15
	調整後営業利益	35	△ 2
	利益率	5.3%	△ 0.8pp

※1 2023年より、財別業績の算出方法を一部変更いたしました。なお、対応する前年同期についても同様に組み替えた金額・数値を表示しております。

※2 事業譲渡の決定に伴い、防振ゴム事業、化成品ソリューション事業を「非継続事業」に分類しております。売上収益、調整後営業利益は、同事業に関する収益・費用を除いた「継続事業」のみの金額となります。

2023年第1四半期 化工品・多角化事業 事業別業績（継続事業ベース）



※ 事業譲渡の決定に伴い、防振ゴム事業、化成品ソリューション事業を「非継続事業」に分類しております。
売上収益、調整後営業利益は、同事業に関する収益・費用を除いた「継続事業」のみの金額となります。

2023年第1四半期 財政状態計算書及びキャッシュ・フローハイライト

(単位：億円)

		2022年期末実績	2023年第1四半期期末実績	対前年末
資産合計 [※]		49,622	49,949	+327
資本合計 [※]		30,125	30,748	+623
親会社所有者帰属持分比率 [※]		59.8%	60.6%	+0.8pp
有利子負債<ネット>		2,483	2,853	+370
期末為替レート	USDドル	133円	134円	+1円
	ユーロ	141円	146円	+5円
		2022年第1四半期実績	2023年第1四半期実績	対前年同期
営業CF		660	1,198	+539
投資CF		△ 740	△ 801	△ 61
フリーCF		△ 81	397	+ 477
設備投資		352	514	+162
減価償却費及び償却費		643	722	+79

※IAS第12号「法人所得税」の適用により、2022年期末実績の金額を遡及修正しております。

2. 2023年 通期見通しについて

2023年 通期見通しについて

為替／原材料／加工費／タイヤ需要見通し



為替

- 第2四半期以降の為替水準として、1USD=128円（通期1USD=129円）、1EUR=135円（通期1EUR=137円）を想定。



原材料/ 加工費

- 原材料：天然ゴム・原油ともに足元軟化基調も、下期には経済回復に伴い単価上昇を想定。
- 加工費：工場におけるエネルギー費・労務費等のインフレが継続を想定。



タイヤ需要

- 新車用：半導体不足改善に伴う需要回復が第2四半期以降も継続し、2月時点の想定と同程度の見込。
- 市販用：タイヤ需要全体の見通しについては、2月時点の想定より需要回復が遅れており、下期にかけて回復基調を想定。特に米欧における景気動向を注視。
一方で、PSR-HRD及び鉱山用タイヤ需要は、相対的に堅調な推移を見込む。

通期業績予想について

- 2023年通期業績予想は、2023年2月に発表した数値から変更ありません。
- 業績予想の前提は下記の通りです。
 - ①需要減速に伴う販売減により、販売数量の前年比増益影響は2月時点の想定より縮小を見込むも、通期でプレミアム販売数量（本数）アップと売値／MIXアップの両方を追求するスタンスは変えない。
 - ②為替前提の変更に伴い、円安影響にて2月時点の想定から増益効果となる見通し。
- 今後の事業環境や当社業績の推移を踏まえ、業績予想に大きな変更が出る場合は、その時点で速やかに開示いたします。



免責条項

本資料に掲載されている業績予想、計画、戦略、目標などのうち歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報からの判断に基づき作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。そのため、今後の当社を取り巻く経済環境・事業環境などの変化により、実際の業績が掲載されている業績予想、計画、戦略、目標などと大きく異なる可能性があります。従いまして、投資に関する決定はご自身のご判断においてなさるようお願いいたします。